

# 美瑛岳

美瑛町立美瑛中学校  
学校だより  
令和4年8月号

## メッセージ

校長 金山 達也

昨年ほどではないにしろ、蒸し暑さを感じた日が多かった夏休みも終わり、2学期がスタートしました。

始業式では、田原生徒会長からの文化祭等に向けた取り組みの方向性が語られ、その後各学年代表から、夏休みの過ごし方や今後の抱負が話されました。40年ほど昔の自分自身の夏休みの過ごし方は、あまりみなさんに偉そうに話せる内容ではないため、立派だなと感心して聞いていました。

さて、18日から19日にかけて、2学年の宿泊研修が実施されました。5年ほど前から、従来の宿泊研修を見直し、美瑛町の支援を頂きながらキャリア教育の一環として新たに構築し直した行事です。コロナ禍以前は札幌圏を中心として、上級学校である大学の見学等を実施していましたが、今年度は昨年度に続き、赤平・砂川方面での研修となりました。1日目は日本の産業革命を支えた赤平炭鉱の見学、ペアやチームで挑むカヌー&ローボート体験、2日目は有名なドラマ「下町ロケット」のモデル(?)とも言われる植松電機でのロケット製作。ぼつりと雨もあったり、虫の攻撃もありましたが、花火もできて、密度の濃い2日間を過ごしました。特に、2日目の植松社長さんの言葉は、痛烈に心に響きました。「思うは招く」「違ふことは素敵なこと」「不安のさき喜びがある」「失敗は乗り越えることで自分の力になる」「夢を語る(語り続ける)」「どうせ無理と言わない」...3年生のみなさんも昨年聞いた懐かしい言葉ではないでしょうか?

私自身、約7年前に植松さんの講演を聞く機会がありました。その時は、教員や保護者向けの講演でしたので、「教師や保護者が無理だと決めつけて、子どもの可能性をつぶさないでください」そんな内容のものだったと記憶しています。しかし、今回は子ども達にむけたメッセージがとても熱く、それでいて優しく寄り添うものであり、最後の言葉「またどこかで会いたいです。だから、死なないでください。」には叫びにも似た植松さんの思いを感じました。過去最悪と言われる若者の現状に心を痛め、植松電機を訪れる子ども達全てにメッセージを発信し続けているということをお聞きしました。その時、校長として、言葉を選んで話してきた「いのち」に関わるメッセージをもっとしっかりと伝えなければ...と思いました。植松電機の奥の廊下にはこれまで社長の言葉を聞いた子ども達のお礼のメッセージが掲示されていました。「勇気や元気をもらえました」はもちろんのこと、「もう少しがんばってみようと思います」など切実な思いがそこには綴られていました。

いつの日か、社長さんに会うことがあった時「社長さんが言うように、夢を語り続けたから今の自分がいます!」と言える日がくるように、「困難にであった時、さてどうしよう?」とまずは考えることから始めるとよいかもかもしれませんね。

## ～中体連・コンクール特集～

### 【中体連全道大会】

7月23日から野幌で水泳、28日は旭川でバドミントンの全道大会が開催されました。本校からは2名の選手が出場しました。全国大会出場は叶いませんでしたが、全道の強豪選手に全力で挑む姿が見られました。選手の皆さん、お疲れ様でした。

#### 【中体連全道大会出場】

- ・バドミントン(女子個人) 舟山 美杏さん(3年生)
- ・水泳(50m自由形・100mバタフライ) 杉山 紗菜さん(2年生)

### 【吹奏楽コンクール旭川地区予選】～金賞おめでとう!～



8月6日に、旭川市民文化会館で吹奏楽コンクール旭川地区予選が開催されました。本校吹奏楽部は、自由曲「ファンタスマゴリア」を演奏し、見事金賞を受賞しました。残念ながら僅差で全道大会出場はかないませんでしたが、メンバーが心を一つにして、たいへん息のあった演奏を披露しました。

### 【1年生美術・皆空窯】

1年生美術科では、皆空窯で粘土制作を行いました。事前に描いたスケッチを元に、手を粘土だらけにしなが、一生懸命制作していました。完成がとても楽しみです。なお、入賞作品は「ピ・エール」に展示される予定です。



### 【2, 3年生技術科, 学校運営協議会・コキア定植】

2, 3年生技術科では、文化クラブのメンバーが種まきをし、成長したコキアを学校前の植樹柵に定植しました。当日は天候にも恵まれ、さわやかな青空の下、楽しそうに作業をしていま



した。また、学校運営協議会では、校門前の花壇への定植作業や、植樹柵で枯れてしまったコキアの植え替え作業等を行いました。

秋には色鮮やかなコキアが通りを飾るのが、今から楽しみです。